

# 広島大学学術情報リポジトリ

## Hiroshima University Institutional Repository

Title	地蔵が泣くことに子どもはどこまでイメージを託しうるか
Author(s)	飯住, 良夫; 根本, 芙美 [ほか]
Citation	児童の言語生態研究 , 13 : 86 - 91
Issue Date	1988-03-15
DOI	
Self DOI	
URL	<a href="http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045150">http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045150</a>
Right	
Relation	



# 地蔵が泣くことに子どもは どこまでイメージを託しているか

飯住良夫・根本芙美ほか

## 授業案

一、日時 昭和六十一年八月四日（月）

午前九時～九時四十分

二、学年・組

茨城県行方郡牛堀町立八代小学校

第五学年一組二組（五十名）（根本級）

三、授業領域 感情

四、授業形態 児童の言語生態研究会会員による共同

授業

五、テーマ設定の理由

○教育の本来の目的は、心意伝承においてとらえられなければならないと考えている。日本人の感情生活そのものが変化しつつある現在だからこそ、子どもたちの中にある輝ける珠のような感性を大事にし、子どもの心の自然な発達の内に、豊かな

イメージは約束されなければならないと思っている。

○言い換えれば、子どもが感情を分化させ、無意識を意識化させて、自然のままの肉体が欲するイメージ運動が体感され、その体感を自分と関わり合う人々と共鳴し合うようにさせることである。

○このことは、子どもにとって泣くということにおいても同様である。我々は、ふだん子どもが泣くということ、痛いから泣く、悲しいから泣くというように体の外に表れた現象としてとらえてしまつて、人間の本来のあるべき姿の中に位置付けようとはしない。子どもは泣くもんかと思つても涙がこぼれてしまう子もいれば、泣きたくても泣けないという子もいる。泣くという行動と心との関係の位置付けによつて、その子の泣きを決定されなければならない。

○心と行動とが一つになる時、純粋な泣きが生ずるとすれば、それは泣きのイメージ運動によつて誘引されているととらえることができる。つまり、泣きを誘発するイメージがあるからこそ泣きが生ずるのである。泣いている最中というのは、没我の状態即ちイメージの世界にひたり切っている状態であると考えられる。

○そういった意味では、今回の授業では、地蔵が泣くことに子どもはイメージをどこまで託しているか、言い換えれば、イメージの世界の誘いについて口述できるかを調べてみたいのである。

○教材文では、地蔵が仁王の顔になった時、涙があふれ出たとしている。それは、怒りのためにあふれる涙といえても、本文においては、地蔵はそれを——（怒り）——と意識していない。結果的には、水を求める女の子のために与えた涙となりは

するが地蔵の涙はためにしたものではない。それは、没我的興奮状態において流した涙といわなければならぬ。

○このように感情生活を極限状況に追いつめると、我々は地蔵のような涙をこぼすことをする。我々が行いたい研究授業は、以上の如き感情生活の理解ではない。それが人間感情の基礎ともいうべき純粹感情であることにおいて、子どものイメージの豊かな純粹さと直観に期待をかけてみたいのである。

## 教材文

おこりじぞう

(山口勇子原作より教材化)

真夏の明るい日ざしが、ビルやいえや学校に、いっぱいにふりそそいで、おじぞうさんも、まぶしいくらいに光って立っておられた。

その時、真つ青に晴れあがった空に、敵の飛行機があらわれたかと思うと、グリーンと高度を下げて町の真ん中あたりに、ばくだんを投げつけた。

いっしゅん、あたりが白っぽい、ぎらぎらした光にぬりつぶされ、すべてのものが、息をとめた時に、大ばくはつがおこっていた。

それは、まるで太陽が落ちてきたとしか言いようのない光景であった。

横町のおじぞうさんも横なぐりのばく風にふき飛ばされて、ズデーンと焼けた砂の上に落ちて、そのままうずまり、わらった顔だけが地面にのぞいていた。

そのおじぞうさんの顔の前を、かみはちりぢりに焼

け、皮ふはめくれてたれさがった人びとが次から次へとにげて行つた。

よく日、町は、見わたすかぎりの焼け野原であつた。

むこうの方からぼろ布のようなものが、風にふかれて近づいて来た。

よく見ると、それは焼けただれた体に、ちぎれた服をわずかにつけたおさない女の子であつた。

女の子は、ゆらゆらゆれるように近づいて来てやつとおじぞうさんのところまで来たが、もう一歩も歩けないというふうに、ばったりとうつぶせにたおれた。

女の子は、しばらくじっとしたまま、かたでせわしくいきをしていた。

やがて、そのうつろな目が、おじぞうさんの顔を見つけたらしく、「かあちゃん」と呼んだ。おじぞうさんの顔が、やさしい母の顔に見えたのだらう。

「かあちゃん、水がのみたいよう。水がのみたいよう。」

「みず……………。みず……………」

女の子の声は、しだいによわくなつてゆく。

ボタボタボタ……………。

ほほを伝わって流れおちると、かたわらにたおれている女の子の口に、飛びこんでいった。

うつくん。うつくん。うつくん。

のどをならしてのみつつける。

長いことかかつて、なみだの水をのみおわつた女の子は、おじぞうさんの顔を見て、かすかにわらつた。

そして、首を上げて、遠くの空をながめていた。

口もとがわずかに動いて、歌でも歌っているようだったが、やがて、がつくり前にふせると、もう動かなかった。

## 授業記録

——あいさつ——

T 今日、この先生が中心になつて進めていきますけれども、他の先生からもみんなに聞きたいことが出てくるかもしれません。

さつき、この人が、そをかいいていましたけど、普段から、「泣いちゃいけない。泣くもんか。」って思っている人、ちよつと手を上げてみて。(三人挙手)「泣くのは恥だ。」って思っている人は?(挙手不明)「泣きたい時には泣いていいよ。」って思っている人。(挙手不明)「そんなこと考えたこともない。」っていう人。(挙手不明)

C (この子のベそは) いつものことだよ。

T いつものことから、よく泣くわけ。

今日は、みんなにある物語を使って、泣くということを考えてもらいます。最初にプリントを配ります。

——プリント配布——

T それでは、一回静かに黙って読んでください。一回読んだら、顔を上げてください。

——児童が教材文を黙読——

T 今読んでもらった話で途中でこのように間が抜けていたでしょ。ここにはある話が入っていたのです。今日は、間に抜けていたところに入る話を考えてもらいます。今の課題のことを考えながら、もう一回読んでみてください。

——児童が教材文を再度黙読する。——

T 今日勉強することが分かっている人、手をあげてごらん。お話の途中に抜けているところがあるでしょ。ここを考えてもらうのですが、正しい答がどこかにあつて、それがびったり当てはまるというのではなくて、今日は自分で自由に考えてください。

では、今、二回読んだだけで、もうそこに入れられるよつていう人、いますか。

C<sub>1</sub> お地藏さんは女の子の心が分かったと思います。

——板書——

T 今泉さんは、こういうふうに入れるといいなと思うわけね。他にこういうのいいから、浮かんたつていう人いますか。じゃ、もう一回、今度は専門の先生に読んでもらうから、よく耳をすませて、

今泉さんのように作れるように、考えてください。  
——範読——

T 空いたところに入れるのが浮かんできたよつと言う人。——間——

なかなか浮かばないようですね。

Tu 本当に浮かんでこない?ここは空欄になっていたでしょ。お話はずうつと続いてきたんでしょ。普通ならずつとここに書いてあつて続いているんでしょ、これ。先生は、この空欄がどんなことなのと聞いているんだけど、これはずうつと続いてきて、ここはとんでいるんだけど、つながればいいんだよ。つながためには、かつこの中にどういことが入ればいいか、そういうことを聞いているんだよ。分かるね。そう考えてください。

T それならあるよつという人?

C<sub>2</sub> 「母ちゃん。もうだめだよ。もう、死にそうだよ。」

T そういう台詞が入る。(板書) こういうのいいんだよ。

C<sub>3</sub> そして、女の子の気持ちは、しだいにうすれていった。(板書)

C<sub>4</sub> お地藏様は泣いた。その涙が女の子に落ちた。

C<sub>5</sub> お地藏さんの顔は笑った顔だったが、少し怒りっぱい顔になった。(板書)

Tu こう考えるのだよ。「女の子の声は次第に弱々しく……ポタポタポタ……」(一人ずつ当てはめてつなげて読む。)今、出ているのだつたら、

どれが一番うまく続いていくかって考えればいいんだね。出ているものよりも僕はもつとうまくつないでやると考えればいい。

T では、この中で一番いいなと思うのはどれですか。

(C<sub>2</sub>案一 C<sub>3</sub>案一 C<sub>4</sub>案四十七 C<sub>5</sub>案二)

Tu でも、酒井君のが出てから、豊島さんは言ったんでしょ。でも、やっぱり酒井君の方がいいなと思ったの?

(豊島うなづく。)

T もつといいのが出るよつていう人。いない?

これが一番多かったんだよね。みんなは、お地藏さんを泣かせちゃったわけだ。じゃなんでお地藏さんが泣いた方がいいの。一番いいのを読んでもよいか。

(一斉読み)

C<sub>2</sub> お地藏さんは、女の子の心が分かったから、涙をあげた。

T 女の子の心が分かった、のね。

Tk 箕輪君は、女の子に涙をあげたって言いましたよね。

C<sub>5</sub> 罪もない女の子をずたずたにしちゃった。

T このことと、お地藏さんの涙は、どのようにつながてるのかな。

C<sub>5</sub> 罪のない女の子をずたずたにしてしまって、かわいそうだな。

T これが、お地藏様の泣いた、涙のわけだね。他に?

C<sub>6</sub> つけたして、女の子は生きたがっているのに同情して、お地蔵様は涙をあげた。

T もういいかな。ここでみんなは、すごいことを言いだしたんだ。みんなの頭ってすごいなあって感心しているんだ。お地蔵様は、涙をあげたと言ったでしょう。じゃ、この中でいいのを選んでみよう。女の子の心が分かったというのがいいと思う人、手をあげて。(○人)

生きたがっているのに同情して涙をあげたがいい人。(四十四人) 罪もない女の子をずたにしておかわいそうだっていう人。(四人)

Tu 酒井君は、「お地蔵様は泣いた。その涙が女の子に落ちた。」と言ったんだよね。それを誰かがいつのまにかあげたにしちゃったんだよね。酒井君はいいの。あげたの方に変更するんですか。しないんですか。

C<sub>4</sub> してもいいと思う。

Tu 俺はあげたつもりはないと思うかと思って、酒井君におじさんは聞いたわけです。酒井君は、「お地蔵様は泣いた。その涙が女の子に落ちた。」と言ったんだよね。一番最初。ところが、他の人はいつのまにか「涙をあげた。」と言ってしまったんだ。酒井君は、お地蔵様は泣いたけれども、泣いた涙を女の子にあげようと思って泣いたんではなかったんですよ。これ。「お地蔵様は泣いた。その涙が女の子に落ちた。」だから、おじさんは酒井君にこちらへ変更するのって聞いたんだ。ね。今、雨が降っているでしょ。これは、八代小学校の運動

場を濡らしてやろうと思って雨が降っているかどうか、分からないよね。そうだから。天に聞いてみなくちゃ分からないね。そうなのに八代小学校のみんなは、八代小学校の運動場に、雨が降っている、こう言うんだよ。これは正しくないね。言い方としては。だからそのことをもう一度確認してください。お地蔵様はあげようと思ったの？女の子に。後ろの方をよく読んでごらん。ボタボタボタからあと。お地蔵様は女の子に涙をあげようと思つてやったのか。その理由は後に書いてある。どっちだろう。分かった人。お乳をあげるように水をあげようと思つてしたことか。どっちだろう。

C<sub>4</sub> 女の子にあげようとした。

Tu そうしたら、あれは撤回だな。後ろをよく読んで。

C<sub>1</sub> わたしは同情してつていう方に手をあげたんですけど、最初に酒井君が言った「落ちた。」の方が、いいと思います。

Tu よく考えてみると酒井君の方がいいって言いだしただぞ。

C<sub>7</sub> 次の二行目と三行目に「とびこんでいった。」と書いてあるから、わざと飲ませようとしたなら、「とびこんでいった。」という表現の仕方はよくないから、初めの酒井君のやつを直さなくてもあのままでもいいと思う。

Tu すごいね。彼は。初めから飲ませようとしたなら、とびこんでいったなんて、バウンドして口に入るなんてそんな面倒なことしなかったっていいじゃないかって言うんだ。またその上に頬を伝わって流れ落ちるとつて書いてある。何で女の子のほっぺに流しておいて口に入れる必要がある？直接口へうまい具合に流せばいいじゃないか。そこで、最初の酒井君のように「落ちた」というのがいいよという人。(四十八人)

そうすると、もう一回読むよ。(板書を読んで再確認) これでいいんだな。これで話がずうっとつながったと思うんだね。手をあげない人が一人いた。大きなわくの中にたつたこれだけ。足りないんじゃないの。これは十行入る。もとの文章は十行入っているんだ。これは二行しかないよ。誰かが「女の子の心が分かった。」つて入れたね。これをつけ加えよう。あと七行は、どうなってるの。

C<sub>7</sub> これ「いかり地蔵」でしょ。三年生の時映画で見たんだけど、なんかこうもうひとつなにかあったような気がするんだけど……

T 他のはいらないか。こういうの(板書してある他のもの)が入ってもいいか。

C<sub>5</sub> 今まで出てきたものに、これもわたしのものを入れておけるんじゃないか……。

T 候補として残しておきたいわけね。

C<sub>7</sub> 僕は箕輪君のは一番初めにしてそのあと今泉さん最後に酒井君というようにやったらつながると思う。

T 箕輪君自身はどうですか。これ残しておいてもらいたいのか、残したらまずいか。

C<sub>2</sub> 残しておいてほしい。

Tk 村山君に質問したいんですけど、豊島さんのほどこに入るんですか。

C<sub>7</sub> ややくしくなっちゃう。今泉さんと酒井君の間。箕輪君、今泉さん、豊島さん、関君、酒井君の順

C<sub>6</sub> 今まであったこと（思い出を入れる。）

T 今まであった思い出を入れたい。どこに。

C<sub>6</sub> 「母ちゃん。もうだめ。」というところ。

C<sub>8</sub> 怒りっぽい顔になったのは、酒井君の後、今書いてあった順でいい。

T どうですか。

C<sub>7</sub> 今聞いたならそれでも一応びったりし、合うと思う。

T ここまでは残してもいいという人？

C<sub>2</sub> （四十七人）高野君の思い出を入れた方がいい人。思い出を入れてもいいと思う。

Tu あと七行足りない。もっと大事なことを入れなくちゃいけないんですよ。まだ解決されてない問題がある。みんなは「お地蔵様は女の子の心が分かった。」から「お地蔵様は泣いた。その涙は女の子に落ちた。」というところに戻っていったんだよ。

Tu 涙をあげたいんだというところから。そうじゃなかった。それは、たまたま偶然にあげることに

なったというところまで話はきたんだよ。まだ解決してないのは、豊島さんが言ったことだよ。お地蔵様の顔は笑い顔だったがなんだか怒りっぽい顔になった。こういうことを言っているんだよ。

怒りっぽい顔になっていて涙を流して平気なのか。なんで怒りっぽい顔を残そうとしてる。なんでな

の。そこが一番大事なところだよ。そこがなんで出ないんだろうってずうっと待ってる。おも

しろくたくさん増やすなんてどうでもいいんだよ。

C<sub>2</sub> 豊島さんの消してやっていいと思う。

Tu 消せという意見が出たよ。さっきは残せと言ったんだから、どっちが本当なのか聞かなくっちゃ。

C<sub>7</sub> ぼくも箕輪君と同じ。

Tu 豊島さんに聞いてみよう。一番最初に出たんだから。

C<sub>5</sub> 怒った意味は罪もない女の子をずたずたにしたのが許せなかったから、お地蔵様はこわい顔をした。

T 豊島さんが残したい理由は分かったね。

C<sub>3</sub> ぼくは、「怒りっぽい顔」じゃなくて、「悲しっぽい顔」になった方がいいと思う。

C<sub>9</sub> わたしは怒りっぽい顔になったというのは、話の一番後ろにつけたらいいと思う。

C<sub>10</sub> 笑った顔だったが次第に涙がこぼれた。怒りっぽい顔だったが悲しい顔になったのか、それとも笑った顔だったが悲しっぽい顔になったのか。どうなの。そこが一番大事だよ。さっき怒り

っぽい顔を消せつという意見が出たよ。そこを聞きたいんだよ。怒りっぽいを誰かが出したんだけど、みんなが賛成したのかどうなのか。怒りっぽい

が邪魔になったから消せというのだけど、それでいいのかという確認をなくちゃ。

C<sub>7</sub> ぼくは怒りっぽい顔だったじゃなくて、笑った

顔だったが、心の中に激しい怒りにもえていたと思う。

T 豊島さんはどうして残しておきたいの。

C<sub>5</sub> 顔であらわさなくても心の中で怒りはあると思う。

C<sub>7</sub> 怒りっぽいというよりは、怒りとして残したい。怒りっぽいはいらないけど、怒りは、いるという人。（多数挙手）

Tu 質問なんだけど、もしお地蔵様の顔が笑った顔だったというのの後に怒りをわくの最後に入れて、次に続くかどうか、わたしには分からないんですけど……。

Tu いい質問だよ。今みんなが考えようとしているのは、お地蔵さんの目から涙がこぼれた。その時のお地蔵様の気持ちというのを、一生懸命考えているんだ。ちよつとみんな迷っている点は、涙がこぼれる時は悲しい時だからこぼれるんだと、こう思ってた。ところが、怒りというのが入ってき

てしまった。怒りっぽい顔というの、誰かが言ってしまったのよ。そして話はボタボタボタになるのよ。だからそことところで今、いい質問をしてくれたんだ。怒りが出てしまつて、次にボタボタボタならすつきりいくんだよ。でもそれだ

と中がからっぽになっちゃうんだよ。お地蔵様が涙をこぼしたのは、みんなは心の中が燃えているんだと言った。心の中は激しい怒りに燃えている。その時は涙が出るの？出ないの？出る場合があるの？そういう場合には出ないの？くやくしてくやく

しくてたらだらなんて人いるんじゃないの。

岡野さんも考えてよ。心の中は激しい怒りに燃えていた、という時には、絶対に人間は、お地蔵様は、必ず涙がこぼれないのか、悲しみの涙しかないのか。泣くときはどういう状態なんだろう。今出てきた「いかり」の場合はどうなんだろう。みんなの意見を聞かせてください。

C<sub>7</sub> 僕は、岡野さんがつながるかどうかって言ってるけど……、怒る時も涙を流すことがあると思う。

C<sub>1</sub> わたしも怒りがあつたとしても泣きます。

C<sub>9</sub> わたしも泣くと思うけど、分かりづらいから、

何かもうひと言入れたい。

C<sub>11</sub> 「心の中は悲しい気持ちになりました。」

C 質問なんだけど、どうして心の中が最初怒りで、

あとで悲しくなるんですか。

T 怒りは、邪魔だってこと？

C ちがう。

Tu 中村さん。こういうこと？ なんだか自分の気持ち

がだんだん激しい怒りに燃えていった。いつのまにか、怒りは消えていった。心の中は悲しい気持ちになつていった。ボタボタボタ……。最初、怒り

それが消んだから悲しい気持ち。そういうこと？ 体の半分だけ怒り、半分は悲しみ。ボタボタボ

タ右目から涙が出た。おかしいな、これじゃ。さつき、俺はそういうことはよくあると言つていた

C<sub>7</sub> じゃないですか。それを聞いてみよう。

お地蔵さんは、けがした人々が前を通つたことから爆弾を落とした人に、うらみと怒りを持った

から。

Tu 君の言うことは分かつたけれども、おじさんは納得できない。爆弾落としやがつてけしからん、け

しからん、けしからんと涙はこぼれていない。心

の中は悲しい気持ちになつた。ボタボタボタ。怒

りが終わつて悲しい気持ちになつたの。そこが聞

きたい。

C<sub>7</sub>

怒りと悲しみが混ぜつこになつて。

C<sub>3</sub>

僕は、心の中が激しい怒りはつて方は、爆弾を落

とした方にやつていて、悲しい気持ちになつたつ

て方はやられた方や女の子の気持ちで……。

C<sub>3</sub>

それでどつちで泣くの？

Tu

両方でいっぺんに思つていていっぺんに泣いてい

る。

じゃ、さつき言つたのと違うじゃない。両方いっ

ぺんでも泣ける？ 泣けない？ どつちか一つ挙げよ

う。両方いっぺんでも泣ける人。（多数）泣けな

い人。（なし）最後に、またひつかかるんだ。そ

の時はどんな顔してるの。半分だけくしやくし

や？ そういう時に涙がこぼれるの？

C<sub>7</sub>

そういう時だけでなくて、その一つだけの時も

あるけど、この場合は、二ついっぺんに……。

Tu

その時の顔は？

C<sub>7</sub>

顔は悲しいけれど……。感情は一つで心は二つ

というか混じつてゐる。なんか分かんないな。

なんだけどそうはいかないよね。だつたらこの時

のお地蔵さんの顔はどんな顔だつたんでしようか

つてことだよ。それが書いてあるの。ここには。

どう書いてあつたんだろう。もう答えに近づいた

んですよ。ここはお地蔵さんの顔が書いてあるん

です。その時のお地蔵さんのこんな顔でしたと書

いてある。決して半分だけ悲しみに濡れていまし

た。片一方は怒つてましたなんて書いてないんだ

よ。そんな器用なことはお地蔵さんだつてできな

いんだよ。さあどんな顔？ 怪物だね。このお地蔵

さんは。怪物の顔をしてたと書いてあるんだよ。

怪物の顔をしてたと書いてあるんだよ。だけど怪

獣という言葉は新しくできた言葉なんだ。古い言

葉でいつたら、化け物の顔をしてた。そうではな

い。よし、じゃあ書いてもらつて終わりにしよう。

—— 以下略 ——

※ 文中

T、飯住良夫（横浜・並木第三小・教諭）、

Tk、小林照子（八王子市立第六小・教諭）、

Tu、上原輝男（玉川大学教授）